


平成31年度 都立学校・学校経営シート

校章	 都立久我山青光学園 視覚障害・知的障害		基	通学区域	視覚部門) 都内全域 知的部門) 世田谷区(一部地域を除く)				
	「確かさ(専門性)」と「愛情(教育愛)」			進路実績	視覚部門) H30 中学部卒業生全員進学(盲学校高等部へ) 知的部門) H30 中学部卒業生全員進学(知的特別支援学校高等部へ)				
基	所在地	〒 157-00061 世田谷区北烏山四丁目37番1号	電話番号	03-3300-6235	本	情	教育課程特徴	①	視覚障害の教育課程(準ずる教育課程と知的障害を併せ有する児童・生徒の教育課程) 知的障害の教育課程(普通学級の教育課程、自閉症の教育課程、重度・重複の教育課程)
	アクセス	(1) 京王井の頭線・久我山駅より徒歩10分 (2) 京王線・千歳烏山駅より関東バス「久我山病院」行きにて「國學院前」下車、徒歩5分 (3) 京王線・千歳烏山駅より徒歩25分						②	個別指導計画に基づいた効果的な指導
本	設置学部	視覚部門) 幼稚部、小学部、中学部(併せて寄宿舎を設置) 知的部門) 小学部、中学部			報	情	教育課程特徴	③	障害の特性等に応じた自立活動の充実
	幼児・児童生徒数	視覚部門) 幼稚部6名、小学部39名、中学部24名(計69名) 知的部門) 小学部153名、中学部85名(計238名) 全校合計307名						④	地域の小学校・中学校等との交流教育、副籍事業の積極的な実践
報	学級数	視覚部門) 幼稚部2学級、小学部12学級、中学部7学級(計21学級) 知的部門) 小学部30学級、中学部17学級(計47学級) 全校合計68学級			報	情	教育課程特徴	⑤	地域の企業や進学先と連携した就業体験の実施
	スクールバス	視覚部門) 2台 知的部門) 9台						副籍実施状況	視覚部門) 45.0%の31名が実施(直接18名、間接13名) 知的部門) 34.8%の83名が実施(直接32名、間接51名)
その他	視覚部門寄宿舎利用児童・生徒35名				学校評価	保護者: 視) 100%、知) 86% 教職員: 視・知ともに100% 評価委員会からの提言…①「社会に開かれた教育課程」「地域と共にある学校」を実現するための保護者や地域との教育内容の共有化。②若手教員育成。③災害時対策等の近隣住民とのより緊密な連携。④アセスメント・専門家からの助言・研究の成果・進路情報等の積極的な保護者への説明。⑤社会性の育成及びいじめ撲滅、人権感覚の育成のための道徳教育、交流教育の充実。			
ホームページ							ホームページ	http://www.kugayama-sh.metro.tokyo.jp/site/zen/	

目指す学校 ○ 幼児・児童・生徒一人一人の人権を尊重し、障害の特性等に応じた、生きる力を育む「確かな」教育を推進する学校
○ 個性を伸ばし、豊かな人間性や社会性を育み、自立と社会参加を目指した「愛情」あふれる教育を推進する学校

今年度の重点目標		今年度の取組と自己評価	
目標①	視・知併置校としての特色ある学校運営 ・幼児・児童・生徒の実態の重複化、多様化に鑑み、視・知併置校として、各部門の指導法や指導内容を共有し、併置校の特色を活かした教育の展開・保護者の期待に応え満足度を高める指導…両部門のシ너지効果を発揮し、個々の可能性を見つけ、伸ばす教育の実践	・指導法・教材整理プロジェクト「久我山青光ベーシック」は、各部門とも学部毎、発達段階ごとに指導の工夫や教材の活用についてのまとめを終え、3年間の集大成として誰もが一目で見て授業作りの参考として活用しやすい、ガイドブックを発行した。2年度は、授業改善委員会(校内組織)の一部として、活用促進を様々な角度から取り組む。 ・「特別支援学校における準ずる教育課程の教育内容・方法の充実」及び「知的障害と視覚障害や聴覚障害を併せ有する児童・生徒への指導内容・方法の充実」は3年間の都としての研究指導事業を終え、今後、校内的充実を図る。 ・学校評価では、保護派から「子供の実態把握の結果について情報提供が不足している。」との意見が複数出されたため、専門的な評価結果の内容を、個別指導計画等を通じてどのように分かりやすく伝えていくかについて今年度検討する。	
目標②	専門性向上を図る研修の充実と学び合い ・オリンピック、パラリンピック教育の推進・社会貢献活動等を通じた自己有用感の醸成・大学等専門家や外部専門員等の外部人材を活用しての研修、子供の実態把握の実践・新学習指導要領を踏まえた指導をテーマにした研究の推進・知的部門: 自閉症教育の推進・視覚部門: デジタル教科書の活用	・上記「久我山青光ベーシック」の一環として、令和元年度はさらに、知的と視覚両部門の相互授業参観回数が増加した。 ・大学研究者、言語聴覚士、作業療法士、臨床発達心理士など多くの外部専門家を招聘し、子供のアセスメントや教職員の研修を実践した。 ・自閉症児童、生徒の指導について具体的な指導内容を明確し、保護者に分かりやすく説明する目的で、個別指導計画の書式を改定し、自立活動指導の記載欄を設定した。また、今年度から知的部門では重度重複学級を学年毎に設定し指導の充実を図る。 ・元年度から新たに「新学習指導要領の理念に基づいた指導の実践」をテーマに3年間の研究活動がスタートした。初年度は新学習指導要領の理解を深めると共に、落とし込んだ指導案を作成し授業を実践した。2年度はPDCAサイクルを活用し質を高める。 ・デジタル教科書は民間の研究活動への協力の形で、個人のタブレットを活用し活用の幅を広げ、効果の検証を継続する。	
目標③	特別支援教育のセンター的機能の発揮 ・国立成育医療センター研究病院眼科にコーディネーターを派遣しての教育相談の実施。0～3歳児育児相談の実施・知的障害のセンター校として、世田谷区への特別支援学級への支援の実施。3歳児からの早期教育相談(BBクラブ)の実施・障害のある子供たちの卒業後の支援に対する研修会の実施	・両部門とも地域の小学校をはじめとする関係機関からの相談依頼にきめ細かく対応し、センター校としての機能を発揮・向上することができた。 ・視覚部門では国立成育医療センターへのコーディネーター派遣や早期育児相談、知的部門ではBBクラブを年間15人規模14回実施し、早期教育の充実を図ると共に、適正就学を実現に向けたプロセスを確実に担うことができた。 ・知的部門では世田谷区小学校2校との共同研究を実践した。視覚部門では、世田谷区小学校・中学校教育研究会に正式に久我山青光学園の加盟が認められ、30年度に比べさらに多くの教員が参加した。次年度も継続する。 ・両部門とも進路指導部や研究推進部主催で、障害児の進路、卒業後の生活に関する研修会を実施した。地域PTA連合会とも連携した研修会も実施し、学校評価でも進路に関する情報提供に関する評価が改善した。	

数値目標	目標	27年度		28年度		29年度		30年度		31年度		32年度	33年度
		目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	目標
目標①	外部人材を入れたアセスメント実施回数。	27回	65回	70回	83回	80回	85回	80回	83回	80回	85回	80回	80回
目標②	視覚部門漢字検定、珠算検定、英語検定合格数。	40人	26人	27人	38人	40人	45回	40人	31人	30人	31人	35人	40人
目標③	早期教育相談や入学相談、巡回相談等の充実…相談対応の充実と件数の拡大。	400件	390件	400件	486件	500件	675件	500件	625件	500件	521件	500件	500件

視覚障害教育部門

<視覚障害教育部門の紹介>

- 1 視力がおおむね0.3以下の、拡大教材を使う弱視児と点字教材を使う盲児、及び、視覚障害と他の障害のある重複障害児に、個別指導計画を基に専門的できめ細かな指導を行い、確かな学力と確かな生活力を身に付けます。普通学級では、通常の学校とほぼ同じ教育課程で授業を行い、重度・重複学級では、一人一人の発達に合わせた授業を行います。
- 2 寄宿舎では、基本的な生活習慣の確立とともに、生活を豊かにする自立心の育成をはかる指導を行います。
- 3 近隣の保育所、小・中学校、児童館及び副籍校と授業や行事を通じた交流活動を行います。
- 4 地域に積極的に授業を公開し、様々な専門家の授業評価をもとに、より良い教育を目指します。

学校生活・教材の紹介

<学校生活の紹介>

- ・見え方や発達段階に応じて、点字や拡大文字、触察教材を使い学習を進めます。
- ・自立活動では、社会自立に向けた基礎力を身に付けます。
- ・寄宿舎では、基本的な生活習慣の確立や、みんなと協力して生きていく力を育てます。



幼穂部(さわる・つくる)



小学部(総合的な学習の時間)



中学部(外国人講師との学習)



校外学習の様子(小学部)



自立活動の様子(歩行指導)



寄宿舎の生活(掃除)

<教材の紹介>

幼児・児童・生徒の見え方や発達段階に応じて、様々な教材・教具・補助具などを使いながら学習します。その一例をここで紹介します。



半眼鏡



拡大読書器



触察教材(触る絵本)

知的障害教育部門

<知的障害教育部門の紹介>

- 1 知的に障害のあるお子さんのための部門です。小学部、中学部を設置しています。愛の手帳をすでに取得されているか、または医療相談等で愛の手帳を取得できるお子さんが対象となります。
- 2 普通学級を知的障害の教育課程と自閉症に特化した教育課程の2つの教育課程に分け、さらに重度・重複の教育課程を加えた3つの教育課程で障害特性に応じた教育を行っています。
- 3 アセスメントを実施し、きめ細やかな実態把握に基づいて個別指導計画を作成し、個々の児童・生徒のニーズに応じた学習を行っています。
- 4 特別支援教育のセンター校として、積極的に授業公開を行うとともに、知的障害教育外部専門員を活用し特別支援教育の専門性の向上や授業改善に努め、より良い教育を目指します。

学校生活・教材の紹介

<学校生活の紹介>

- ・日常生活の指導の中で、自分でできることを増やします。
- ・学級集団を基礎に友達や先生との豊かな関わりを育てます。
- ・国語・算数(数学)はグループ学習と個別学習で構成されます。
- ・体育(保健体育)の中で健康なからだづくりを目指します。
- ・将来の生活を見通した進路指導の充実を図ります。



小学部(国語・算数)



中学部(国語・数学)



小学部(生活単元学習)



中学部(作業学習)



小学部(音楽)



中学部(美術)

<教材の紹介>

児童・生徒一人一人の興味・関心や発達段階に基づいて、身に付けたい力を様々な教材・教具を使いながら学習します。使用している様子を紹介します。



視覚教材(小学部)



認知教材(小学部)



プリント教材